

今月の言葉

いいことをして
 ときは、悪いことを
 してるくらいの
 つもりでいいなさい。

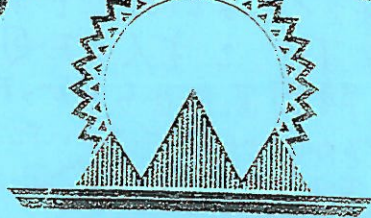
糸井重里・池田利久(新聞)

新潮社「できることしよう。
 (ふくらみ震災後に考え
 こと) P356より

山陽堂だより 30

2012年2月如月


山陽堂書店



山陽堂書店

山陽堂のおとしりば
 スイスの

チョコレートやさん
 リッツ
 Lindt

160年もの歴史を
 もちます。2月14日は
 ハレンタインデー。
 フォーランドの木に包ま
 れたリッツハップ型
 リッツハップミルチョコレート
 も再登場 

昔の青山

ちよとのそいてみませんか? 展

2月17日 午後5時までです。

11月24日から始まった山陽堂企画展、老若男女幅広い
 年齢層の方に来ていたたくことかできました。ご来場いた
 いた方には昔の青山の話もきかせてもらい、興味深かったです。
 「昭和10年頃の青山表参道町並図」(1575円)は、一軒一軒名前が
 入っています。一枚に大きく広げて展示されているこの地図は、
 昭和初期、火災保険会社の依頼で著市整図社さんで作成。
 当時、日本が戦争に向かっている時代、一軒一軒訪ねての作業です。
 怪しまれて、ご苦勞なされたこともあったようです。

そんな苦勞をとまわって、できあがったこの地図、今山陽堂で大活躍。

80年近く経て、女学生だった頃を思い出して「この通りを曲からたるところに〇〇さん
 のおうちがあって、いっしょに学校へ行ったんですよ。」「このお屋敷は
 〇〇炭鉱の社長さんの...」「この辺りに西郷隆盛さんの子孫の方が
 住んでいらして、いっしょに勉強したんです」「青山脳病院の二階には
 鉄格子がはめてあって、奇声かきこえて、こわかった...」などなど
 懐かしそうに話してくたさる方もいました。一枚の地図から、いろんな

話をひき出してくれました。地図やさんありがとうごさいました😊

それに、チャリートにこんな一文が書かれていました。

「戦争時の様子、知らなかったのが驚きました。今はききうした大好きな
 青山にも、そういう歴史があったこと、いつまでも覚えていたなと思いました。」

「本」を通して震災を語る

山陽堂はなにかできるんたらう。店頭で募金箱を置くというのもひとつかもしれないけれど、もう少しちがう形でできることはいかと思っていました。このお正月の木のお祭りの娘が学生時代に林業キャンプのホームステイでお世話になった陸前高田の家に、お悔みに行きました。看護士さんだったお母さんが津波でえぐられたからです。「いつか来てくれると思ってたよ」と主人が言いました。父親と妹と三人で伺ったのですか、ご主人とお母さんはとちも温かみを感じてくれました。陸前高田からもとった三人の話をきいて、お母さんが動きました。お声をかけさせていた著者の方、出版社さんみなさまほんとうに、お天くおひきうけつたさ。今回の企画ができました。

娘は

2/15 水 平凡社 いせひでこ著「木のあかちゃんズ」
語り手 いせひでこ氏
http://www.kodomo.gr.jp/kodomonohon_article/556/

2月14日(火)~19日(日)
「木のあかちゃんズ」原画展
中野セロ展ホワイ-
moc #2より 1=2

「未来に祈りをこめて、夢中で描いた絵本『木のあかちゃんズ』に、赤ちゃんと育つ人、沖から迎える人、可憐な人間に届けた。」

2/17 金 新潮社 「できることをしよう。ぼくらが震災後に考えたこと」
新潮社系井重里・ほぼ日刊イトイ新聞著
語り手 新潮社編集者 河野通和氏・四角英未氏・松本太郎氏
<http://www.shinchosha.co.jp/book/363802/>

2/17(金)は
交付終了
しました 😊

「この本のなかにはいるのは、あなたかもしれない。(中略)『はつこの誰かさん』、それ以外の場所で、できることをしまはつ。まじかまじり」

2/24 金 芸術新聞社 椎根和著「フクシマの王子さま」
語り手 椎根和氏 (週刊平凡・ポパイの編集長、昔はなほ通し、おーとはいつかきます。)
「HANAKO」「OLIVE」などの創刊編集長として一貫して編集畑を歩く)
<http://www.gei-shin.co.jp/books/ISBN978-4-87586-329-8.html>

「ふずかしい...。と思っていたこと、」
「桃太郎、旧約聖書モーセの出エジプト、花咲かしいさん、ボクモチクボ、星の王子さま...この本の中に巻く場。本当に守りかぎもの。何なのか、いっしょに考えてみませんか？」

3/2 金 金の星社 今西乃子著「心のおくりびと」
語り手 今西乃子氏
<http://noriyakko.com/book/>
「うん、ママだ...ママだ...」
2011年3月11日東日本大震災。津波からうはれた母親の面影を、ひりひりの女性から生前の姿にもといていく。中略
人の最期の姿は、残された家族の今後を決める。被災地にボランティアに入り、遺族の思いが動き出す瞬間を見つけた

時間 6時30分から
場所 ギャラリー山陽堂2階
定員 20名
参加費 1000円

復元納棺師の記録。

今回の企画での参加費は全額「大震災出版復興基金」に寄付。
申込方法 店頭・電話・ホームページから
107-0061 東京都港区北青山3-5-22
TEL 03-3401-1309
FAX 03-3401-1358
<http://sanyodo-shoten.co.jp/gallery/index.html>

田×新
ました

仙台の工人さん
たちかいつくって
いるホーがこけしです。
この中に手紙と
いれて、気になる
○○さんに
手紙を出さう！
こから手紙と
めて入れます。

683円